Education first !!

久留米大学医学部 医学教育研究センター

Center for the Study of Medical Education (CSME)

久留米大学医学部医学教育研究センター　ニュースレター　第１７号　　2016 年 11月発行

トランプ氏、アメリカ大統領に！

先日行われたアメリカ大統領選挙で、クリントン氏を破り、トランプ氏が次期アメリカ大統領になることが決まりました。政治経験の無い大統領は、1953年以来で、その他、行政経験も、軍経験も無いとなると、なんと建国以来初だそうです。世界に最も影響のある国であるアメリカの大統領ですから、今後の政治手腕が気になる所です。過激な発言が多かったトランプ氏ですが、結果的に大統領選に勝ったのは、やはりアメリカ国民が大きな変化を期待しているからでしょう。これからのアメリカがどのように変化していくのか、楽しみでもあり、不安でもあり複雑な心境です。久留米大学も様々な苦しい状況に置かれています。まさに、大きな変化が望まれているときだと思います。教員、職員、学生、が三位一体となって、この閉塞感を作っている壁を破壊して良い方向への変化を作って行きたいですね。

医学教育研究センターを楽しむためのヒント

医学教育研究センターについて知ろう！（その１５）

Q: パソコンの使い方を教えて貰えるのでしょうか？

A: パソコンを3倍楽しく使う方法を教えます。

Q: パソコン選びを手伝ってもらえるのでしょうか？

A: あなたのライフスタイルに合わせたスペックをアドバイスします。

医学教育研究センターは教育一号館の６階にあります（旧医学教育学）。大学生活に関すること、学業に関すること、留学やボランティア、部活に関すること。大学に関する悩みがあれば、どんなことでも相談に乗ります。いつでもお越しください。「手薬煉を引いて」お待ちしています。

- スタッフ一同

近藤先生のご講演の様子（今月の教員の声より）

今号の特集

- 今月の教員の声
- 今月の学生の声
- 今月の医学時事

今月の教員の声

「先輩医師と話そう」の報告

久留米大学病院男女共同参画事業推進委員会・委員
久留米大学小児科　岡松　由記

今年度で第５回となる「先輩医師と話そう」のご報告をします。

この会は、福岡県医師会の主催、久留米大学病院元気プロジェクト・久留米医師会・日本医師会・久留米大学病院男女共同参画事業推進委員会（元気プロジェクト）の共催で、医学生を対象に医師のワークライフバランスについて考えられるように、先輩の体験談を聞く事を目的としています。企画と司会・進行も、医学部医学科４年生の代表者（川上拓哉さん、川上真代さん）がしています。

今回は、男性、女性のロールモデル先輩医師の講話がありました。お二人は初期研修病院が同級生でありました。当日ご参加いただけなかった方のために特別に内容のご紹介をします。

ご講演後の満尾美穂先生と近藤礼一郎先生

満尾美穂先生は、平成16年卒業後、市中病院で初期研修後に久留米大学小児科の後期研修を始められました。医師になってずっと『仕事人間』でプライベートの事は後回しだったとのことですが、卒業後11年目にで結婚され、翌年小児科のスタッフのときに出産されました。現在は、お子さんが１歳となるまで育児休暇中です。ご主人（ER看護師）とお付き合いされている時から、仕事の都合で、様々な約束へ遅刻したりやキャンセルをお願いする事があり、自身の仕事に理解があるパートナーに出会えた事に感謝されていました、また、出産時は36歳であり、高齢出産となる事の不安もお持ちでしたが、このとき小児科医としては、小児科専門医・、血液専門医・、小児血液・がん専門医の取得などのキャリア形成がすでにすすんでいたため、復職をしやすいメリットを感じていました。自身が母親となり出産・育児を経験した事で、さらに患者さんと母親の気持ちを理解できる小児科医にレベルアップしたいと感じられています。

近藤礼一郎先生は、平成16年卒業後、満尾先生と同じ市中病院の初期研修後、消化器内科での後期研修をへて病理学講座に勤務中です。現在お二人のかわいいご子女のお父様ですが、次女のご出生のときの出来事について話してくださいました。奥様が出産を控えた37週のときに、長女が急病でPICUに入院となり、奥様も体調不良となったため、準緊急帝王切開で次女が出生されました。この出来事は約３日間のうちに瞬く間におきました。ご家族の相次ぐ入院に近藤先生は呆然となりましたが、同時に家族の入院介助のために仕事を休む必要があり、この時とき、初めて、久留米大学の例規集と就業規則を確認されました。取得獲得できる有給休暇は、家族の急病付き添いに看護休暇として5日、男性の産休として2日でした。、育休は1年の取得が可能で

今月の医学時事

マイコプラズマ肺炎の報告数が1999年の調査開始以来最多となっている。最も多いのが岐阜県、奈良県、青森県、石川県、大阪府と続いている。患者の８割は１４歳未満である。

マイコプラズマ肺炎は発熱、全身倦怠。頭痛などで始まり、一般的には重症感は少ないが、重症肺炎となることもあり胸水貯留も珍しくはない（国立感染症研究所ＷＥＢより抜粋・要約）。

NHK News WEB

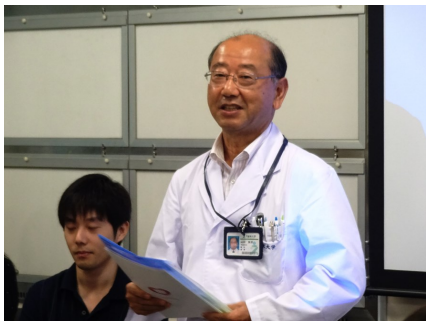
http://www3.nhk.or.jp/news/html/20161101/k10010752101000.html

国立感染症研究所

http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/503-mycoplasma-pneumoniae.html

医学教育研究センターのニュースレターに記事を投稿したいと言う方は、是非ご連絡をください。教員、学生問いません。教育に関する事、学校生活に関すること、ボランティア活動に関する事、大学に対する要望など、受け付けております。

医学教育研究センター



山川良治元気プロジェクト委員長（眼科学教授）による開会の挨拶

佐藤薫福岡県医師会理事男女共同参画担当による閉会の挨拶

したが、休業１ヶ月前の申請が必要であるため、適応されない事がわかりました。通常の年次有給休暇が17日あったため、合計24日の休暇を取れる事とわかりましたが、ご家族の病状の先がわからないなか、不安な気持ちになったそうです。しかし、職場である病理学講座に事情を話したところ、「すぐに休み家族のもとに行きなさい」と上司から快く背中を押されました。さらに、職場の同僚のサポートもあり急に仕事を中断する不安が随分軽減され、ご家族の介助を精一杯する事ができました。幸い、皆様は順調に回復され24日の有給休暇以内に復職されました。この経験をもとに、参加者には、“例規集を読んでおく事”を勧めておられました。

お二人ともに共通して、パートナーや職場の上司、同僚の理解のある対応に非常に感謝をされていましたが、講話を聞いていて私は、お二人の常に感謝の気持ちを持つ態度や、できる範囲で精一杯頑張っている姿が、周囲からのその対応を引き出しているようにも感じました。双方間で良好なコミュニケーションがとれていることも印象的でした。

当日の参加者は医学科5年生を中心に50人に達し、部屋に入りきれないほどの大盛況でした。また例年通り、おいしいサンドイッチを参加者はいただき、心もお腹も満足感にあふれました。主催の福岡県医師会、共催の久留米医師会・日本医師会には感謝申し上げます。立役者である、病理学講座の守屋普久子先生のご尽力により、この会は年々盛会が増しております。皆様、次回をどうか楽しみにしてください。

今月の学生の声

学会発表で得られた度胸と経験値

医学科４年　川上　真代

去る10月15日、私は鹿児島で「第54回日本糖尿病学会九州地方会」に出席し、学会発表を行ってきました。演題は「糖代謝・脂質代謝・耐糖能に及ぼす性差・体格・年齢・運動習慣の影響」で、約2年かけて研究・解析を行った内容です。

西日本生理学会、あのく祭に続く大舞台。そろそろ緊張にも慣れるかと思いましたが…あがり症の私は例にもれず、前日はほぼ眠れず発表直前には頻拍と軽度の呼吸困難に陥っていました。

しかしさすがに3回目、発表時間が7分と短かったこともあり、原稿は見ずにそらで発表することができました。終盤で声が震えだし焦りましたが、ずっと課題となっていた「質疑応答」ではきちんと答えることができ、経験値を積んだことで少しは度胸がついたかなと感じられました。ただしフロアからの質問はなく、座長の先生

からの質問かつ予想された内容であったため、「フロアからの予想外の質問にも答える」という目標は次回に持ち越しとなりました。

大方うまくいった発表ですが、今回ハッキリと分かった課題点もあります。原稿を見ずに自分の言葉で説明する際、語尾や細かい言い回しの部分が心もとなく、小さくとも誤解を招きかねない表現になりうるという点です。自己分析するに、言葉に詰まらずに説明しようとするあまり、言いやすく慣れている表現が口を突いて出てしまうことが原因で、学会発表の練習を重ねて表現に慣れる必要があると自覚しています。

他のセッションも拝聴し、いろんな方々の発表技術も勉強してきました。読み原稿を用意して読み上げる方も多かったですが、やはり自分の言葉で語る発表というのは、圧倒的に聞きやすく惹きこまれるものでした。発信側としての経験をした後に受け手側に立つと、また違った視点を得られることもあり面白いものです。

さて、ウン年前の受験で訪れた以来の鹿児島、当時はできなかったプチ観光もしてきました。お昼には超ジューシーな黒豚とんかつで労をねぎらっていただき、帰りは公園にそびえ立つ西郷どんにご挨拶をして帰路に着きました。本場の白くまを食べ忘れたことだけ後悔しています。

学生のうちではなかなかできない研究や学会発表を経験させて頂き、力をつけてもらった集大成、これをまた次の糧にしていくことが自分の中で楽しみになっています。

今月の学生の声

医学科４年
川上　真代

西郷隆盛像

医学教育研究センターは最先端の技術で学生と教員を繋げます。

編集スタッフより

こんにちは。編集担当の柏木です。第１７号です。今月は、先生からの投稿もありました。記事が多く、今月の医学時事を縮小させていただきました。引き続き、先生方からの投稿をお待ちしております。

お問い合わせ先

当ニュースレターついてお気軽にお問い合わせください。　記事も募集しています。

久留米大学医学部 医学教育研究センター　編集担当：柏木　孝仁
〒830-0011 福岡県 久留米市旭町67 TEL: 0942-31-7764 FAX: 0942-31-7765
https://csme.kurume-u.ac.jp　E-MAIL: csme@med.kurume-u.ac.jp